

教科学習の教育心理学的研究— I

Psychological Studies on Learning of School Subjects : I

亀 田 久
Kameda , Hisashi

ま え が き

現実の与えられた学校設備、教員組織その他の条件の中で、既成の教科書によって教育が行なわれたときに、生徒の教科学習の成果として、いかなるものが実現されているかについて、これを明らかにするための知識は現在欠けており、したがって、慎重に検討されなければならない問題の一つであると考ええる。

このような知識をうることによって、教授法の研究へと展開する目途も明らかになるであろうし、また、カリキュラムを検討する方向への目途も見出すことができるであろう。

この教科学習に関する研究は、今日教育心理学における盲点の一つと考えられる。

ここでいう教科とは、学校で教えられる知識と技能をふくむ学問の体系と考える。それは単なる学問の体系ではなく、学習され、指導される学問の体系、いかえると教育によって発達する学問の体系と考えなければならない。

かかる学問の教育的体系がカリキュラムの作成については、教育の立場から、教科カリキュラムと経験カリキュラム、または生活カリキュラムの作成法があり、これに応じて教科学習と生活学習、または単元学習の指導法がある。しかし、ここでは教科カリキュラムの問題をとりあげることにする。

生徒の学習活動の成果として示された生徒の学習能力が、生徒の学力であるが、それには学習を条件づけているいろいろの要因がみとめられる。このことは、学力調査による要因分析によって明らかにされることで、その主な要因としては、知能、性格、性、生理的条件など個性的要因と家庭環境、学校環境、教授法などの環境的要因が考えられる。

学力の問題については、考え方がいろいろであって、一義的にこれを規定することは困難である。学会においても、学習指導要領の学問的不備の究明について論議がなされているが、現在のところは一応現行学習指導要領を時代の要求する学力を示すものとみとめる大勢にあるといえよう。(教育心理学研究 6 巻 3 号)

したがって、ここではこの考え方を支持し、考察を進めることにする。

研究の目的

中学校生徒の学力についての内容分析によって学習指導の改善、カリキュラムに関する方策の樹

立のための基礎資料を提供しようとするものである。

そこで、さしあたって本年度は知能と学業成績（国語、社会、数学、理科、英語）、学習適応性について、その実態を概観することにする。

研究の方法

上記の目的を達成するために、「生徒の個人差に応じた学習指導法の改善」について、助言、協力を行なっている、大口市西太良中学校1年から3年の生徒（1年93名、2年121名、3年104名）について、実施された教研式新制学年別知能検査、診断的学力検査小学F形式ならびに中学G形式、基礎学力診断検査、学習適応性検査結果の概略を基礎資料として、考察することにする。検査実施の期間は昭和42年4月21日から7月22日までの間である。

学校の概要

1. 地理的実態 西太良中学は鹿児島県北部に位置し、熊本県と境を接する大口市の南西部の一角を占める旧西太良村の地域にある。

校区の面積は33,66 平方 km （大口市は 292,24 平方 km ）

校区の人口 3,767名、世帯数 936,

地 域 の 実 態

区分	水田	畑地	山林	原野	宅地その他	備考
%	13.7	9.1	31.5	0.9	45.8	耕地の中で水田の占める割合62%

生徒の保護者の職業構成

職業別	農林業	公務員	卸小売商	製造修理業	運輸機関運転従業者	自由業	建設業	その他
%	76.8	10.0	4.0	2.0	1.7	2.3	0.5	2.7

2. 教育的関心 盆地状の地形で、人家は西太良駅、および針持駅付近が比較的密集し、いわゆる街の形状を呈しているのみで、一般には部落と人家が散在する純農村地帯、農業形態は米作中心であるが、部分的には近郊的園芸農業への方向もみられ、生活程度は良好である。

出稼ぎは増加の傾向にあり、農村子弟の俸給生活者への転換が顕著で、父母の教育に対する考え方は変化し、高校進学率は70%におよんでいる。学校に対して極めて協力的で、教育的関心は非常に高まっている。

3. 生徒の実態（西太良中学校教官の観察） 従順で言いつけられたことはよくやる一方自ら進んでやろうとする積極性がない。

友人間は敬愛の精神に富み、男女間の対立も少なく協調性に富んでいるが、それが望ましい集団意識として深まっていくには大きな努力が必要である。

師弟間のけじををよくわきまえており、教師、外来者に対する礼儀も良好である。

遵法の意識に乏しい者があり、一般に自治意識に乏しい。

依頼心が強く、自ら思考し、物事を論理的に追求していこうとする意欲に欠けている。

感受性に乏しく、自分の意志を適確に表現できない。

結果とその考察

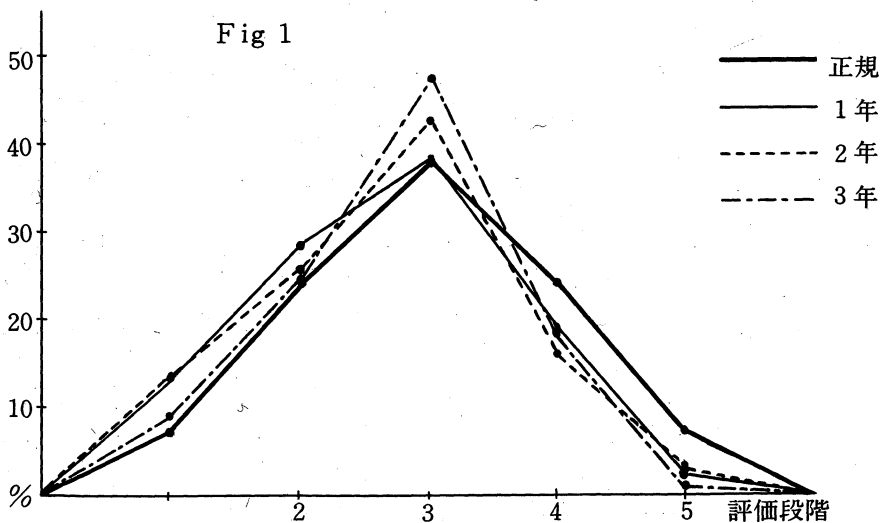
知能検査、各教科の学業成績、学習適応性の結果について概観する。

1. 知能、知能偏差値については、Table 1ならびにFig 1に示したとおりである。

Table 1 知能分布ならびに知能偏差値

	1 (34以下)	2 (35~44)	3 (45~54)	4 (65以上)	5 (65以上)	平均
1年 人数	1 2	2 6	3 6	1 7	2	46.2
%	12.9	28.0	38.6	18.3	2.2	
2年	1 6	3 1	5 2	1 9	3	46.1
	13.2	25.6	43.0	15.7	2.5	
3年	9	2 5	4 9	1 8	1	46.8
	8.8	24.5	48.0	17.6	1.1	

これによると、知能偏差値平均は1年46.2、2年年46.1、3年46.8で、各学年ともにやや低くなっており、これを段階点によってみると、1、2、3の段階に集まり、4、5は著しく少なくなっている。さらに、学年別に正規分布曲線と比較検討すると、1年は1がとくに高く、2がこれにつき、3は標準とほぼ一致し、4、5は著しく低くなっている。2年については、1、3は著しく高く、2は標準に近く、4、5は1年同様低くなっており、ことに、4は顕著である。3年は、他の学年



とは趣きをことにして、1, 2については標準とほぼ一致しており、3は最も高く、4, 5は低くなっている。

以上のことから各学年ともに左寄りの傾向があるということが出来る。

2. 学業成績 つぎに診断的学力検査小学F形式と診断的学力検査中学G形式について1年から3年までの実施結果は、Table 2, 3, 4 および Fig 2, 3, 4 のとおりである。2年については、

S Dを単位とした知能段階及び評価段階

知能偏差値	理論分配 曲線の%	評価段階
75才以上	1	5
65~74	6	
55~64	24	4
45~54	38	3
35~44	24	2
25~34	6	1
24以下	1	

診断的学力検査中学G形式1年用ならびに2年用（いずれも国語、社会、数学、理科、英語）を使用している。これによると、平均値は1年は国語40.0, 社会42.7, 算数40.3, 理科44.2, 2年は国語45.1, 社会45.0, 数学47.5, 理科45.0, 英語41.5, 3年は国語46.5, 社会49.4, 数学47.6, 理科48.6, 英語45.5となっており、1年はとくに低く、これを評価段階の区分によってみると、各教科とも段階点は2である。2年は英語以外はやや低くなっているが、3であり、3年は同校としてはもっとも高く、

Table 2 学力分布ならびに学力偏差値（1年）

	1 (34以下)	2 (35~44)	3 (45~54)	4 (55~64)	5 (65以上)	平均
国語 人数 %	3 2 34.4	2 8 30.1	2 4 25.8	9 9.7	0 0	40.0
社会	2 7 29.0	3 1 33.4	2 3 24.7	8 8.6	4 4.3	42.7
算数	3 1 33.4	2 8 30.1	2 7 29.0	7 7.5	0 0	40.3
理科	2 2 23.9	2 5 27.1	2 9 31.6	1 6 17.4	0 0	44.2

Table 3 学力分布ならびに学力偏差値（2年）

	1 (34以下)	2 (35~44)	3 (45~54)	4 (55~64)	5 (65以上)	平均
国語 人数 %	1 5 12.4	4 2 34.7	4 8 39.7	1 4 11.5	2 1.7	45.1
社会	1 8 14.9	4 9 40.5	3 0 24.8	1 5 12.4	9 7.4	45.0
数学	1 4 11.7	3 5 29.2	3 8 31.6	2 9 24.2	4 3.3	47.5
理科	8 6.6	5 5 45.4	4 1 33.9	1 4 11.6	3 2.5	45.0
英語	3 5 29.2	3 6 30.0	3 4 28.3	1 5 12.5	0 0	41.5

Table 4 学力分布ならびに学力偏差値(3年)

	1 (34以下)	2 (35~44)	3 (45~54)	4 (55~64)	5 (65以上)	平均
国語 人数 %	5 4.8	33 31.7	45 43.3	21 20.2	0 0	46.5
社会	7 6.7	36 34.6	25 24.0	24 23.1	12 11.6	49.4
数学	6 5.8	34 32.7	42 40.0	15 14.4	7 6.7	47.6
理科	2 1.9	39 37.5	40 38.5	18 17.3	5 4.8	48.6
英語	7 6.7	53 51.0	26 25.0	13 12.5	5 4.8	45.5

S Dを単位とした学力段階および評価段階

知識偏差値	理論分配 曲線の%	評価段階
75以上	1	5
65~74	6	
55~64	24	4
45~54	38	3
35~44	24	2
25~34	6	1
24以下	1	

Table 6 G形式各層別学力偏差値比較表(2年)

層	国語	社会	数学	理科	英語
A	56.0	56.8	58.0	54.6	57.4
B	49.9	48.8	49.3	49.8	50.4
C	44.7	45.6	44.1	46.0	42.8
同校	46.5	49.4	47.6	48.6	45.5
全国	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

Table 5 G形式各層別学力偏差値比較表(1年)

層	国語	社会	数学	理科	英語
A	55.0	55.7	56.9	56.6	55.5
B	48.9	49.0	48.6	47.9	48.6
C	44.2	44.8	43.3	44.4	44.5
同校	45.1	45.0	47.5	45.0	41.5
全国	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

層別基準の区分

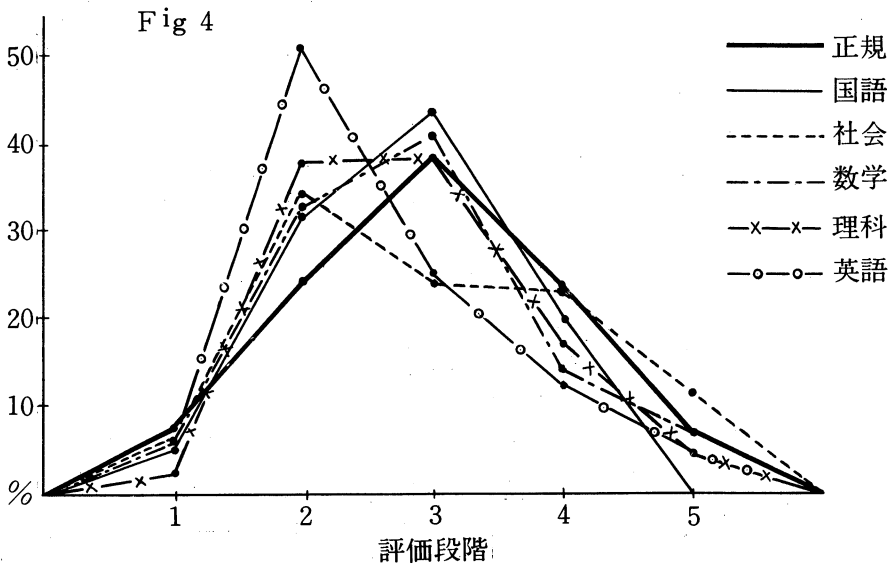
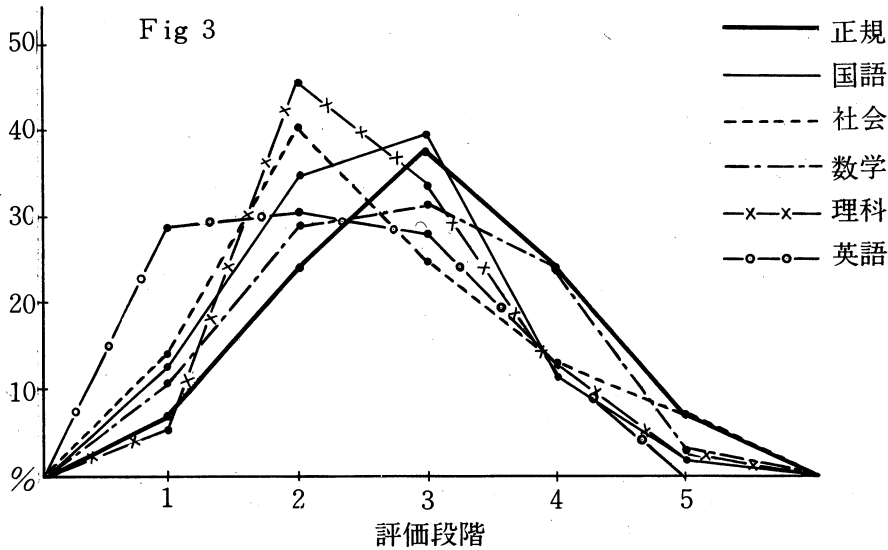
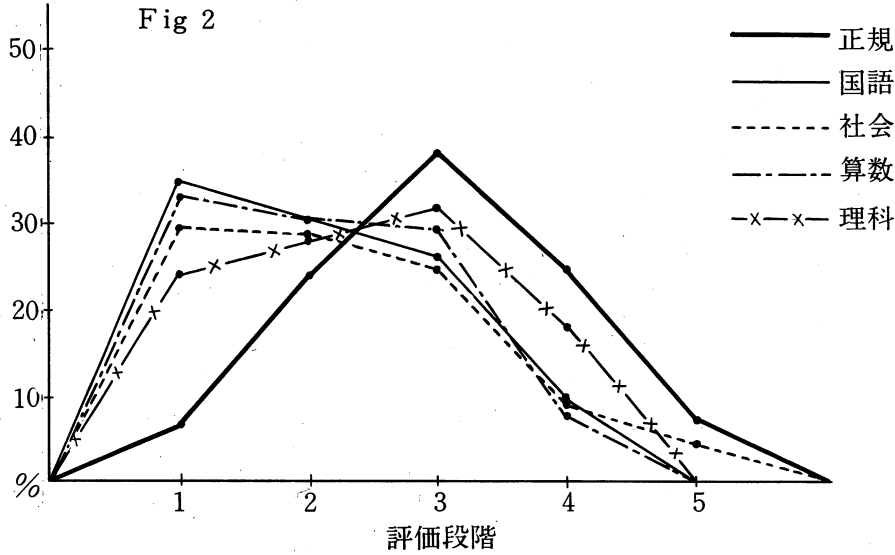
	地域別類型
A	大, 中都市の住宅街および商業市街
B	大, 中都市の工業市街およびその他の 大, 中都市近郊農村 市街 小都市
C	鉱業市街, 農村, 山村, 漁村

1, 2年との間に相当の差がみられる。

農山村におけるG形式学力偏差値平均からみると, 2年は英語を除き, また, 3年は各教科とも高くなっている。(Table 5, 6)

さらに, これを各学年別, 教科別に, 正規分布曲線との比較において考察すると, まず, 1年については, 各教科ともに段階1, 2に集まっており, 3, 4, 5は低く, 一般に左寄りの傾向がある。したがって, 学力の低いことが指摘できる。このうちでは, 理科が他教科に比較してやや右寄りということができよう。

2年については, 各教科とも概して左寄りである。このうち, 英語は1がとくに高くなっており,



2がこれにつき, 3, 4は低く, 5は皆無となっている。数学は一応左寄りではあるが, 正規分布曲線にやや近似している。

3年については, 各教科ともやや左寄りといえるが, 他の学年に比較して成績は良好であると考えられる。段階1は理科を除いては, ほぼ正規

分布曲線に近く, 2は各教科とも高くなっているが, 英語はとくに著しい。3は社会, 英語は低く, 国語はやや高いが, 理科, 数学は近似している。4は国語, 社会はほぼ近似し, 他は幾分低くなっている。5は国語は皆

無, 社会は高くなっており, 他の教科はほぼ近似しているといえる。

つぎに, 各教科を領域別に検討するために, 中学校基礎学力診断検査結果について考察すると, Fig. 5~18のとおりであ

Fig 5

国
語
(二
年)

分析項目	得点	時間	項目別診断プロフィール(段階)				
			1	2	3	4	5
読む	26.9	25分	0 5 10 17 18 22 27 28 33 38 39 42 44 45 47 49				
			0 2 4 5 7 8 11 12 15 16 18				
書く	7.6	10分	0 3 4 6 7 10 11 12 13 14 15				
ことば	7.8	10分					
得点合計	42.4	45分	〔学力偏差値段階〕 (○をつける)				
学力偏差値	43		偏差値34以下	35~44	45~54	55~64	65以上
			1	②	3	4	5

Fig 6

国
語
(二
年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)				
			1	2	3	4	5
第1部(1~2) 聞くこと 15分 話すこと	6.9	2学期	0 3 4 5 6 7 8 10 11 13				
		3学期	0 2 4 5 6 7 8 9 11 12 13				
		2年1学期	0 3 5 6 7 8 9 10 12 13				
第2部(3~4) 書くこと 15分	11.4	2学期	0 1 2 5 7 8 10 13 14 17 19 20 25 29				
		3学期	0 2 3 5 8 9 12 14 15 18 20 21 25 29				
		2年1学期	0 3 4 7 9 10 13 15 16 19 21 22 25 29				
第3部(5~7) 読むこと 15分	17.7	2学期	0 3 4 8 11 12 16 19 20 24 28 29 34 39				
		3学期	0 2 4 5 9 13 14 18 22 23 27 31 32 35 39				
		2年1学期	0 3 5 6 10 14 15 20 25 26 30 34 35 37 39				
得点合計	36.0		〔学力偏差値段階〕 (○をつける)				
学力偏差値	48		偏差値 34以下	35~44	45~54	55~64	65以上
			1	2	③	4	5

Fig 7

国
語
(三
年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)				
			1	2	3	4	5
第1部(1~3) 聞くこと 15分 話すこと	9.0	2学期	0 3 4 6 7 9 10 12 13 15				
		3学期	0 2 4 5 7 8 10 11 13 14 15				
		3年1学期	0 3 5 6 8 9 11 12 14 15				
第2部(4~5) 書くこと 15分	11.9	2学期	0 2 3 5 7 8 10 12 13 16 17 22 26				
		3学期	0 3 4 6 8 9 11 13 14 16 18 19 23 26				
		3年1学期	0 2 4 5 7 9 10 12 14 15 18 20 21 24 26				
第3部(6~7) 読むこと 15分	12.0	2学期	0 2 4 5 8 9 12 13 15 17 18 22 27				
		3学期	0 3 5 6 9 10 12 14 15 17 19 20 23 27				
		3年1学期	0 3 6 7 10 11 14 16 17 19 21 22 25 27				
得点合計	32.9		〔学力偏差値段階〕 (○をつける)				
学力偏差値	49		偏差値 34以下	35~44	45~54	55~64	65以上
			1	2	③	4	5

る。なお、1年は各教科とも1年1学期用を、2年は1年用、3年は2年用を実施している。

まず国語については、1年は、「ことば」、「書く」、「読む」の順になっており、「ことば」は段階3で普通、「書く」はようやく3、「読む」は2となっている。2年は、「書くこと」、「読むこと」はほぼ同じで、3、「聞くこと・話すこと」は2でやや劣っている。3年は、「書くこと」、「読むこと」、「聞くこと・話すこと」の順になっており、段階はいずれも3となっている。

以上のことから、概して「聞くこと」、「話すこと」が劣っているようである。

社会については、1年は、各領域ともにほとんど差はみられないが、第2部（日本史）、第3部（一般社会）、第1部（地理）の順になっている。各領域とも3となっている。2年は、第1部（日本）、第2部（世界）の順で、前者は普通であるが、後者は2に近づいている。

これを要するに、第1部についてややすぐれているといえるようである。

Fig 8

社
会
(一
年)

分析項目	得点	時間	項目別診断プロフィール(段階)														
			1	2	3	4	5										
第1部	19.6	15分	0	5	9:10	13	16	18:19	22	25	27:28	31	34	37:38	39	40	
第2部	19.3	15分	0	4	8:9	12	14	16:17	20	23	25:26	29	31	33:34	37	39	41
第3部	19.1	15分	0	5	10:11	14	17:18	20	22	24:25	27	29	31:32	34	36		
得点合計	58.1	45分	[学力偏差値段階] ()をつける)														
学力偏差値	46		偏差値34以下	35~44	45~54	55~64	65以上										
			1	2	3	4	5										

Fig 9

社
会
(二
年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)													
			1	2	3	4	5									
第1部 (1~11) 日本 25分	25.7	2学期	0	1	8	15	16	23	30	31	38	45	46	63	81	
		3学期	0	1	2	9	17	18	25	33	34	42	50	51	66	81
		2年1学期	0	2	3	11	19	20	28	36	37	46	55	56	68	81
第2部 (12~17) 世界 20分	13.2	2学期	0	1	2	4	6	8	13	18	20	24	28	30	45	60
		3学期	0	2	4	7	10	17	18	24	26	31	36	38	49	60
		2年1学期	0	2	4	6	9	12	14	23	32	34	38	42	44	52
得点合計	38.9		[学力偏差値段階] (○をつける)													
学力偏差値	47		偏差値34以下	35~44	45~54	55~64	65以上									
			1	2	3	4	5									

Fig10

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)														
			1			2			3			4			5		
第1部 (1~11) 日本 30分	25.6	2学期	0	3	7	8	13	18	19	25	31	32	37	43	44	57	70
		3学期	0	4	8	9	15	21	22	28	35	36	42	49	50	60	70
		3年1学期	0	5	10	11	18	25	26	33	41	42	49	57	58	64	70
第2部 (12~25) 世界 15分	14.6	2学期	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	34	44
		3学期	0	3	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	35	44
		3年1学期	0	4	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	36	44
得点合計	40.2	〔学力偏差値段階〕(○をつける)															
		偏差値34以下			35~44			45~54			55~64			65以上			
学力偏差値	46	1			2			3			4			5			

数学については、1年は、「図形」、「数と計算」、「数量関係」、「量と測定」の順になっており、「図形」は普通、「数と計算」はやっと3、他は2となっており、「数量関係」と「量と測定」に劣るようである。3年は、「数式」、「図形」、「数量関係」の順であり、前二者は段階3であるが、後者は2で劣っている。

以上のことから、各学年を通じて、「図形」は比較的良好に理解されているが、「数量関係」にやや劣っているといえることができるようである。

理科については、1年は、「第1分野」、「第2分野」の順になっており、いずれもやや劣っているが、後者は、段階2と3の境にある。2年も、「第1分野」、「第2分野」の順であるが、その間にほとんど差はみられず、いずれも3である。3年は、やや「第2分野」が高いようであるが、非常に近似しており、3の段階である。

以上のことから、概して「第1分野」がややすぐれているといえるようであるが、他の教科の領域と比較して、理科はほとんど差がないといえる。

Fig11

分析項目	得点	時間	項目別診断プロフィール(段階)																										
			1				2				3				4				5										
A 数と計算	5.5	10分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																
B 量と測定	3.0	10分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																
C 数量関係	3.9	15分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																
D 図形	4.8	10分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																
得点合計	17.2	45分	〔学力偏差値段階〕(○をつける)																										
学力偏差値	40		偏差値34以下				35~44				45~54				55~64				65以上										
		1				2				3				4				5											

数
学
(
一
年)

Fig12

数
学
(二
年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)													
			1	2	3	4	5									
第1部 (1~6) 数式 15分	11.7	2学期	0	1	3	5	6	8	10	11	13	15	16	20	24	
		3学期	0	1	2	4	6	7	10	12	13	15	18	19	21	24
		2年1学期	0	2	3	5	7	8	10	13	14	17	19	20	22	24
第2部 (7~12) 数量関係 15分	4.9	2学期	0	1	2	3	4	6	7	8	9	13	17			
		3学期	0	1	2	3	4	7	8	11	12	15	17			
		2年1学期	0	2	3	4	6	8	9	12	13	15	17			
第3部 (13~18) 図形 15分	4.4	2学期	0	1	2	3	4	5	7	8	13	17				
		3学期	0	1	2	3	4	6	7	9	10	13	17			
		2年1学期	0	2	3	4	5	7	8	11	12	15	17			
得点合計	21.0	[学力偏差値段階] (○をつける)														
学力偏差値	49	偏差値34以下 35~44 45~54 55~64 65以上														
			1	2	③	4	5									

Fig13

数
学
(三
年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)													
			1	2	3	4	5									
第1部 (1~4) 数式 15分	9.7	2学期	0	1	2	4	5	7	9	10	12	14	15	19	22	
		3学期	0	1	2	4	6	7	9	11	12	14	17	18	20	22
		3年1学期	0	2	3	6	7	10	12	13	15	18	19	22		
第2部 (5~11) 数量関係 15分	6.4	2学期	0	2	4	8	10	12	14	26	36					
		3学期	0	2	4	6	8	10	12	18	20	28	36			
		3年1学期	0	2	4	3	10	12	14	20	22	30	36			
第3部 (12~19) 図形 15分	6.8	2学期	0	1	2	3	4	6	7	9	10	16	22			
		3学期	0	1	2	5	6	8	9	12	13	18	22			
		3年1学期	0	2	3	5	6	8	10	11	13	14	18	22		
得点合計	22.9	[学力偏差値段階] (○をつける)														
学力偏差値	48	偏差値34以下 35~44 45~54 55~64 65以上														
			1	2	③	4	5									

Fig14

理
科
(二
年)

分析項目	得点	項目別診断プロフィール(段階)															
		1	2	3	4	5											
第1分野 20分	24.3	0	5	10	15	16	19	22	28	27	31	32	35	38	39	42	46
第2分野 25分	13.4	0	4	8	9	11	13	14	17	19	20	23	25	26	28		
得点合計	37.7	[学力偏差値段階] (○をつける)															
学力偏差値	44	偏差値 34以下 35~44 45~54 55~64 65以上															
		1	②	3	4	5											

Fig15

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)														
			1	2	3	4	5										
第1分野 (1~10) 25分	13.9	2学期	0	3	4	7	9	10	14	15	18	19	31	43			
		3学期	0	2	4	5	11	12	15	17	18	24	25	34	43		
		2年1学期	0	3	5	6	12	13	19	20	25	29	30	36	43		
		2年2学期	0	3	5	6	8	10	11	13	15	16	18	20	21	30	39
第2分野 (11~25) 20分	14.4	2学期	0	6	7	10	12	13	15	17	18	21	23	24	32	39	
		3学期	0	4	7	8	11	13	14	16	18	19	22	24	25	32	39
		2年1学期															
		2年2学期															
得点合計	28.3	[学力偏差値段階] (○をつける)															
学力偏差値	46	偏差値 34以下 35~44 45~54 55~64 65以上															
		1 2 ③ 4 5															

理科(二年)

Fig16

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)														
			1	2	3	4	5										
第1分野 (1~8) 25分	13.6	2学期	0	3	4	7	9	10	13	15	16	19	21	22	30	37	
		3学期	0	2	4	5	11	12	18	19	25	26	32	37			
		3年1学期	0	3	5	6	12	13	17	21	22	25	29	30	34	37	
		3年2学期	0	4	8	9	12	13	15	17	18	21	22	30	39		
第2分野 (9~20) 20分	16.4	2学期	0	5	9	10	12	14	15	17	19	20	22	24	25	32	39
		3学期	0	6	10	11	13	15	16	18	20	21	23	25	26	33	39
		3年1学期															
		3年2学期															
得点合計	30.0	[学力偏差値段階] (○をつける)															
学力偏差値	45	偏差値 34以下 35~44 45~54 55~64 65以上															
		1 2 ③ 4 5															

理科(三年)

英語については、1年は課せられていないので、2年と3年について考察する。まず、2年は、「語・連語」、「音声」、「文・文型」、「文法事項」、「総合」の順になっているが、ほとんど差はみられなく、いずれも段階3である。3年は、「総合」、「語・連語」、「音声」、「文・文型」、「文法事項」の順になっている。2年と比較すると、やや差がみとめられるが、顕著な差はみられない。

以上のことから、一応、「語・連語」は幾分理解度が高いのに対して、「文法事項」、「文・文型」はやや低くなっているといえるようである。

3. 生徒の学習適応性について考察するため、教研式学習適応性検査AAI (Academic Adjustment Inventory)の結果を概観することにする。その結果は、Table 7のとおりである。

これによると、学年別では、1年47、2年49、3年49となっており、普通であり、各領域ごとにも、ほとんど問題はみとめられない。領域別診断プロフィールによると、Fig19~21のとおり

Fig17

英語(二年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)													
			1	2	3	4	5									
I 音 声 (1~5) 11分	11.6	2 学期	0	2	4	5	7	8	11	12	14	15	19	23		
		3 学期	0	3	5	6	9	10	13	14	17	18	20	23		
		2年1学期	0	3	6	7	10	11	13	15	16	18	20	23		
II 語・連語 (6~10) 10分	11.4	2 学期	0	1	2	5	7	8	11	12	14	15	21	27		
		3 学期	0	2	3	6	8	9	12	14	15	17	19	20	24	27
		2年1学期	0	3	4	7	9	10	14	17	18	20	23	24	27	
III 文・文型 (11~13) 9分	7.8	2 学期	0	1	2	5	6	8	9	11	12	16	20			
		3 学期	0	2	3	6	7	8	10	11	13	14	17	20		
		2年1学期	0	3	4	7	8	10	12	13	15	16	18	20		
IV 文法事項 (14~16) 7分	6.0	2 学期	0	1	2	3	4	6	7	9	10	14	17			
		3 学期	0	1	2	4	5	8	9	12	13	15	17			
		2年1学期	0	2	3	5	8	10	11	13	15	16	17			
V 総 合 (17) 8分	4.7	2 学期	0	1	2	3	5	6	7	8	10	13				
		3 学期	0	1	2	3	4	6	7	9	10	13				
		2年1学期	0	2	3	4	5	7	8	10	11	13				
得点合計	41.5	〔学力偏差値段階〕(○をつける)														
学力偏差値	46	偏差値34以下					35~44		45~54		55~64		65以上			
		1	2	3	4	5										

Fig18

英語(三年)

分析項目	得点	学期	項目別診断プロフィール(段階)													
			1	2	3	4	5									
I 音 声 (1~7) 11分	9.4	2 学期	0	3	4	6	7	9	10	11	12	15	17			
		3 学期	0	2	4	5	7	8	10	11	13	14	17			
		3年1学期	0	3	5	6	8	9	11	12	14	15	17			
II 語・連語 (8~16) 11分	10.9	2 学期	0	1	3	5	6	9	10	12	13	20	26			
		3 学期	0	1	2	4	6	7	9	11	12	14	16	17	21	26
		3年1学期	0	2	3	5	7	8	11	13	14	17	19	20	23	26
III 文・文型 (17~18) 6分	5.0	2 学期	0	1	2	3	4	5	7	8	10					
		3 学期	0	1	2	3	4	5	6	8	9	10				
		3年1学期	0	2	3	4	5	6	7	9	10					
IV 文法事項 (19~21) 7分	4.8	2 学期	0	1	2	3	4	5	6	7	10	12				
		3 学期	0	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12			
		3年1学期	0	2	3	4	5	6	7	8	9	12				
V 総 合 (22~23) 10分	8.2	2 学期	0	1	2	3	4	7	8	10	11	13	15			
		3 学期	0	1	2	4	5	8	9	11	12	15				
		3年1学期	0	2	3	5	6	9	10	12	13	15				
得点合計	38.3	〔学力偏差値段階〕(○をつける)														
学力偏差値	51	偏差値34以下					35~44		45~54		55~64		65以上			
		1	2	3	4	5										

である。これによると、1年の学習態度は、2年、3年に比較してやや低く、これに反して、2年の精神、身体
の健康はやや高いといえることができるようである。

さらに、これを下位テストごとに、診断プロフィールによってみると、Fig22~24のとおりである。

このプロフィールによって、考察をすると、1年は、「家庭の環境(物的環境)」、「不安傾向」、「覚え方・考

Table 7 学習適応性偏差値一覧表

	学習態度	学習技術	学習環境	精神身体 の健康	総点
1年	46	47	48	50	47
2年	49	49	47	52	49
3年	50	51	48	49	49
全校	48	49	48	50	48

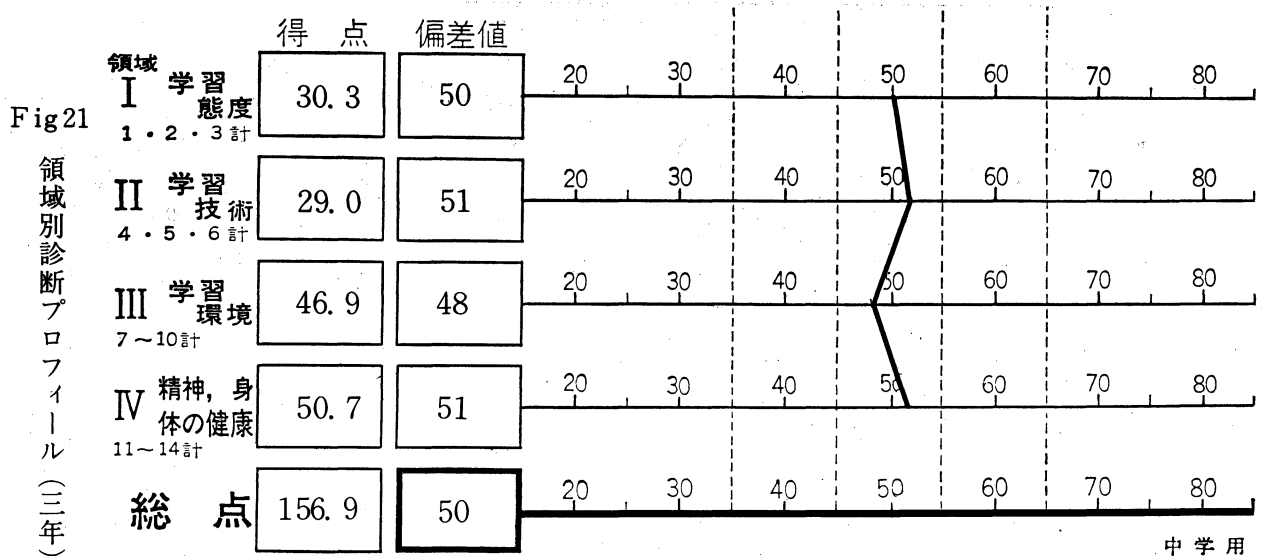
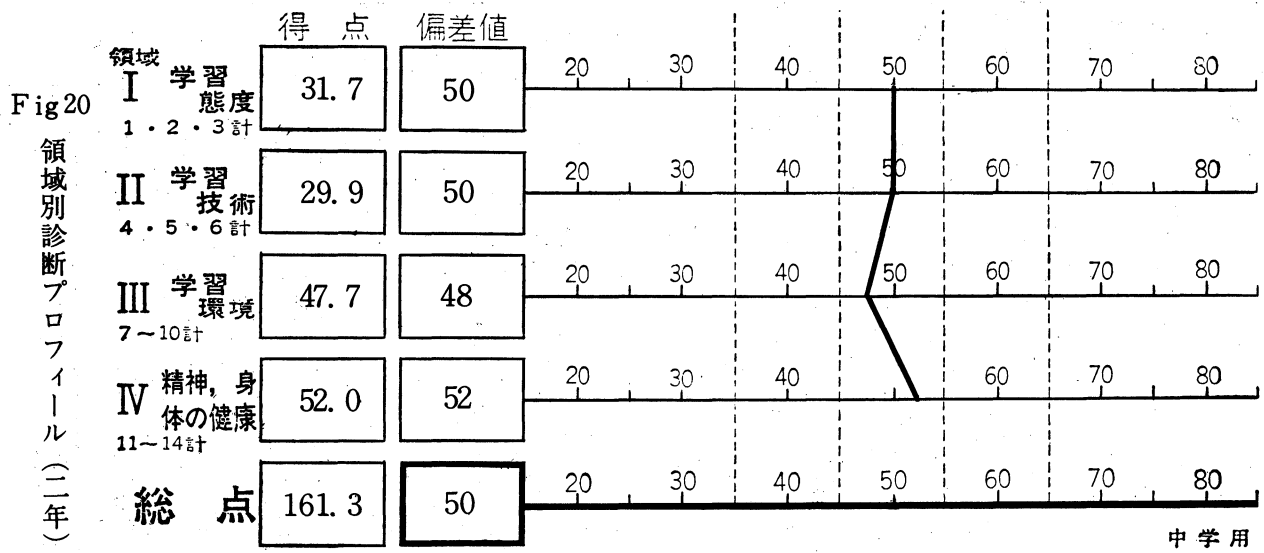
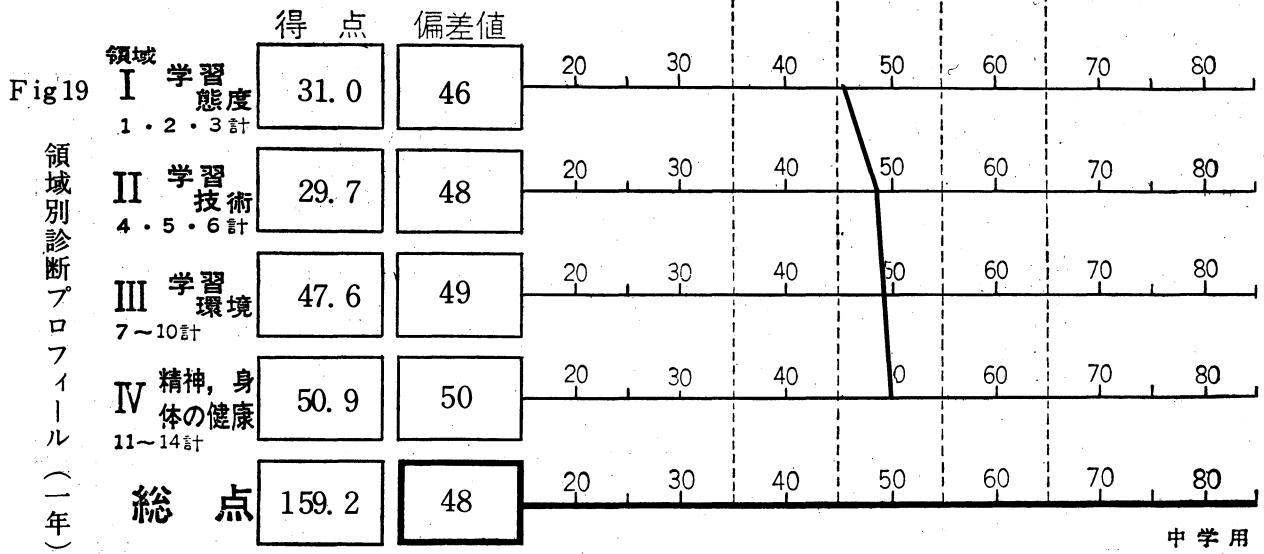


Fig22 下位テスト1年診断プロフィール

得点めもりの上段は1年用、下段は2年用です。
両端のめもりをこえる得点は、最端のところに○をつけてください。

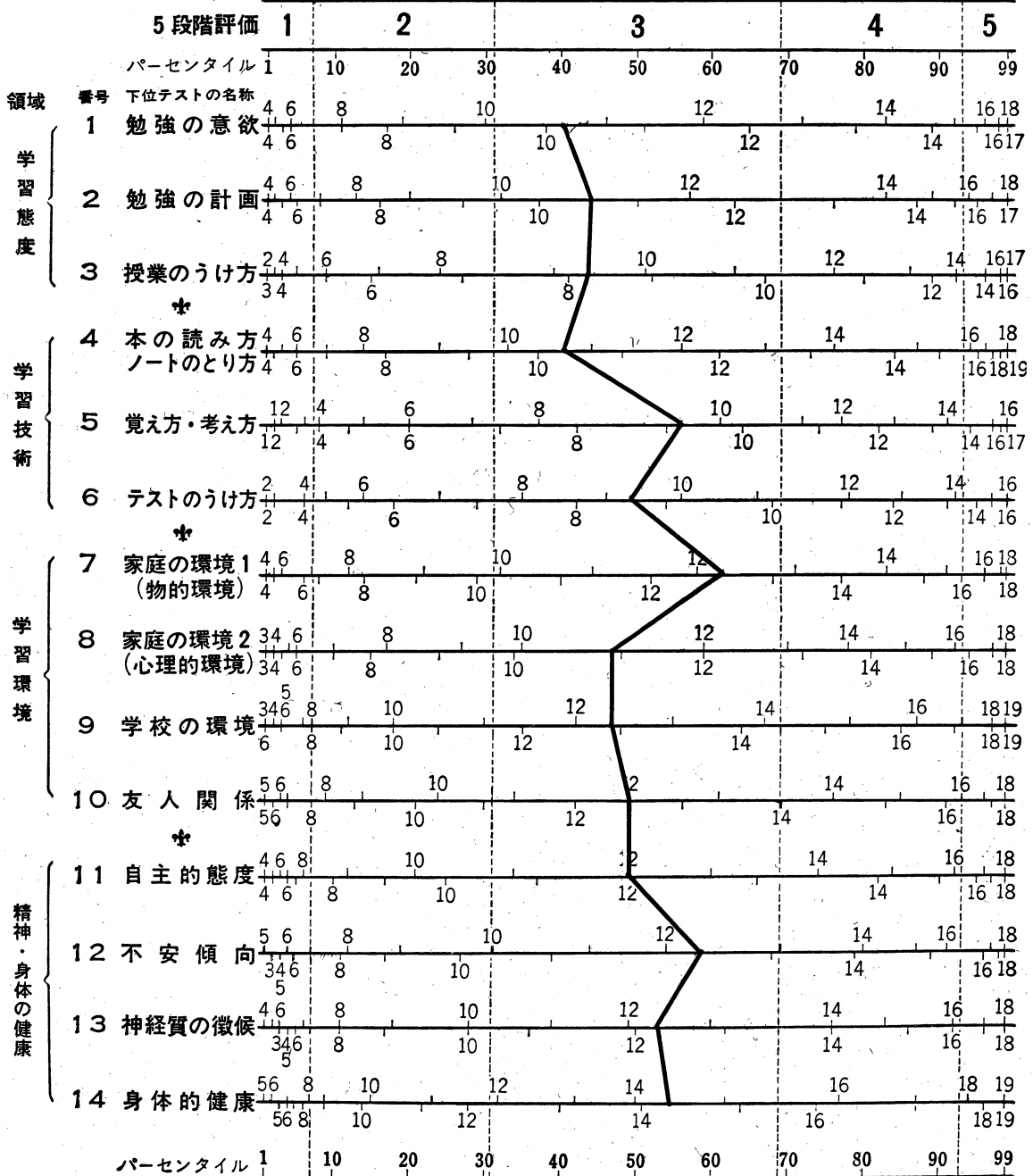


Fig23 下位テスト2年診断プロフィール

得点メモりの上段は1年用、下段は2年用です。
 両端のメモりをこえる得点は、最端のところに○をつけてください。

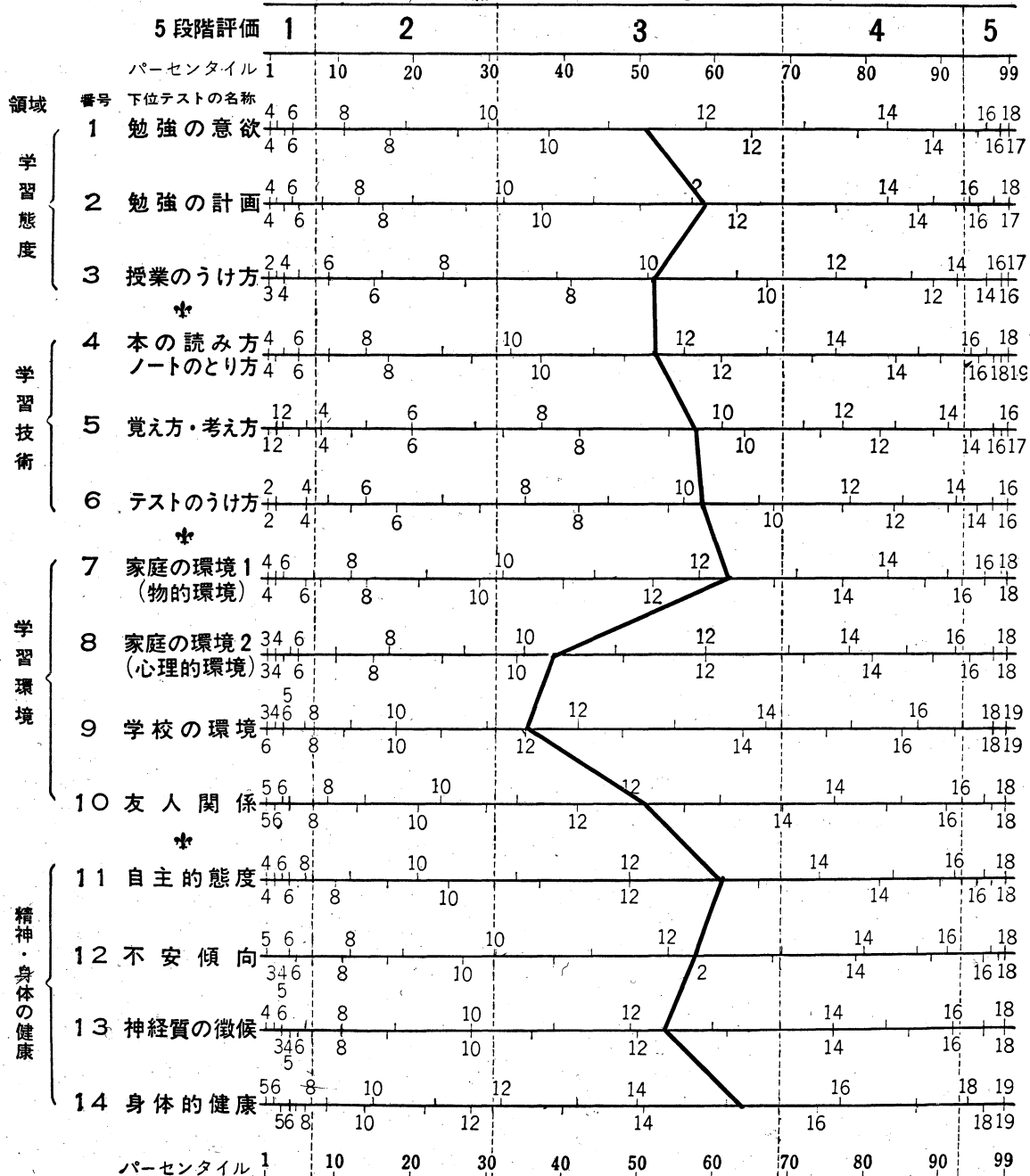
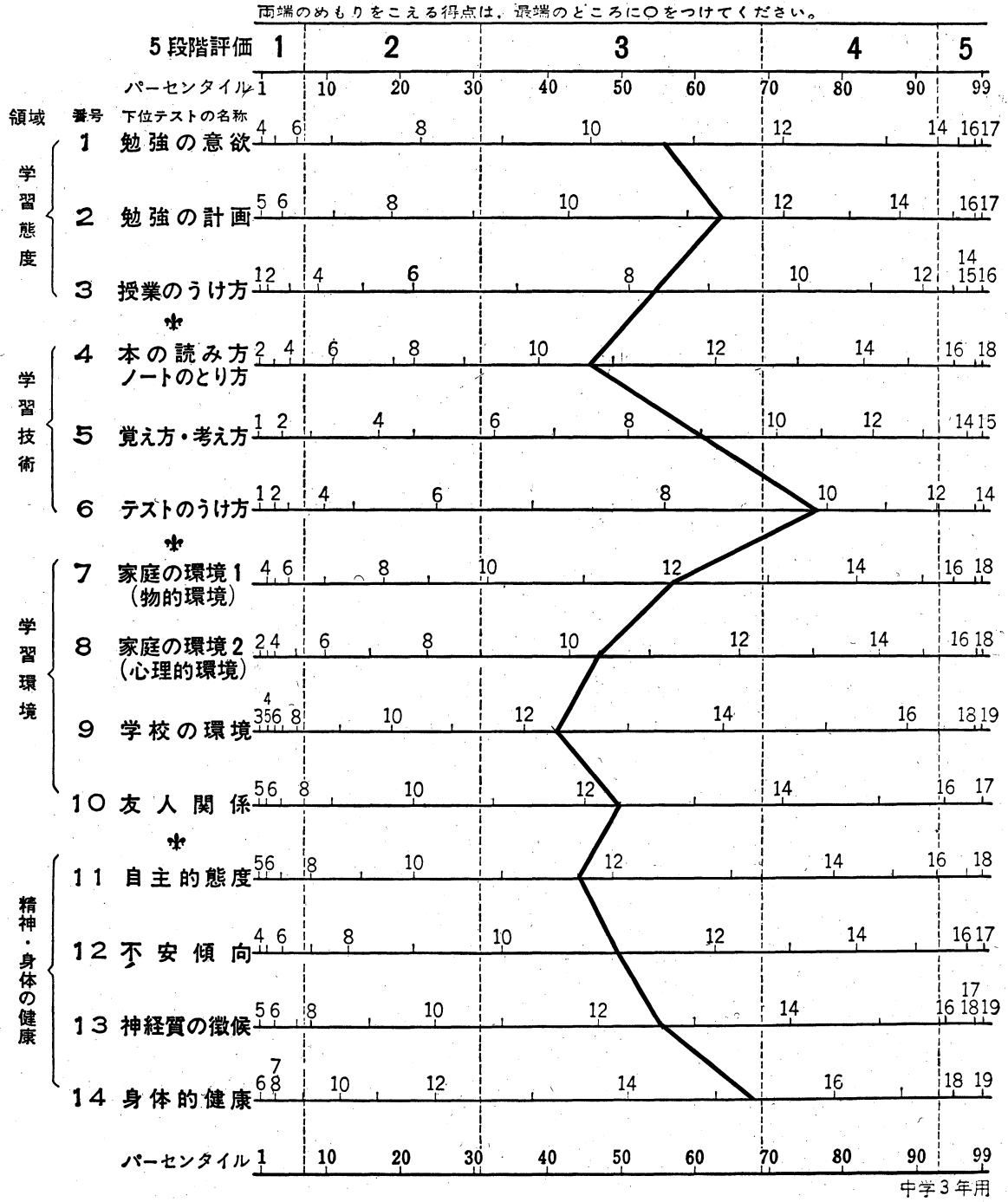


Fig24 下位テスト3年診断プロフィール



え方」, 「神経質の徴候」, 「身体的健康」については問題がなく, 一応適応しているが, 「勉強の意欲」, 「勉強の計画」, 「授業のうけ方」, 「本の読み方・ノートのとり方」, 「テストのうけ方」, 「家庭の環境(心理的環境)」, 「学校の環境」, 「友人関係」, 「自主的態度」においては, さらに積極的態度をもつように指導することが必要である。

2年は, 「勉強の計画」, 「覚え方・考え方」, 「テストのうけ方」, 「家庭の環境(物的環境)」, 「自主的態度」, 「身体的健康」, 「授業のうけ方」, 「不安傾向」, 「本の読み方・ノートのとり方」, 「神経質の徴候」については問題がなく, 適応しているが, 「家庭の環境(心理的環境)」, 「学校の環境」, 「友人関係」, 「勉強の意欲」においては, 2年としては劣っているといえる。さらに積極的態度をもつように指導することが望ましい。

3年は, 「勉強の意欲」, 「勉強の計画」, 「授業のうけ方」, 「覚え方・考え方」, 「テストのうけ方」, 「家庭の環境(物的環境)」, 「神経質の徴候」, 「身体的健康」には問題がなく, うまく適応しているが, 「本の読み方・ノートのとり方」, 「家庭の環境(心理的環境)」, 「学校の環境」, 「友人関係」, 「自主的態度」, 「不安傾向」においては, 3年としては劣っている。さらに積極的態度をもつように指導することが必要である。

以上これを要するに, 「家庭の環境(物的環境)」については, 各学年ともに比較的安定しているといえるようである。しかし, これに対して, 「家庭の環境(心理的環境)」, 「学校の環境」, 「友人関係」については, 各学年ともに劣っており, さらにその原因について詳細な分析検討をおこない今後における積極的な指導の必要性を痛感するものである。

参 考 文 献

- | | | |
|-------------------|--------------|-------------|
| 各教科教育法の教育心理研究 | 教育心理学研究 6巻3号 | 日本教育心理学協学編集 |
| 教科の教育心理学的研究の問題と方法 | 〃 | 〃 |
| 各教科教育法の教育心理学研究 | 〃 7巻2号 | 〃 |